

課程による博士学位請求論文審査報告書

2024年 1月 29日

早稲田大学政治経済学術院

須賀 晃一

早稲田大学大学院

経済学研究科長 鎮目 雅人 殿

主指導教員：須賀 晃一（早稲田大学政治経済学術院教授）

副指導教員：浅古 泰史（早稲田大学政治経済学術院准教授）

外部審査員：三浦 慎太郎（神奈川大学経済学部准教授）

博士学位請求者：山口 洋平（早稲田大学大学院経済学研究科博士課程）

報告論題（博士学位請求論文題名）：

Essays on Political Competition and Issue Selection

2024年1月19日（金）13：00より、主指導教員、副指導教員、および外部審査員が参加し、鎮目研究科長の司会のもとで公開報告会を開催し、申請者に対する口頭試問を実施した。口頭試問に対する応答などを含め、申請者の博士学位請求論文を慎重に審査した結果、下記の評価に基づき、同論文が博士学位授与にふさわしい論文であると全員一致で判断したので、ここに報告する。

記

1. 提出要件の充足状況

提出された 学位請求論文を構成する学術論文は 3 編である。うち第 2 章は、査読付き国際学術誌である Games and Economic Behavior 誌に公刊されている。また、成蹊大学の矢作健氏との共著である第 4 章は、Journal of Theoretical Politics 誌に出版が決定している。第 3 章については、Social Choice and Welfare 誌より改訂後再提出要求を受けている。いずれの学術誌も The Japanese Economic Review 誌よりも上位に位置づけられており、博士論文の提出要件は満たされている¹。

¹ Scimago における直近のランキングは次のとおり。Games and Economic Behavior (SJR 1.558, Q1 in Economics and Econometrics)、Journal of Theoretical Politics (SJR 0.684, Q1 in Sociology and Political Science)、Social Choice and Welfare (SJR 0.601, Q2 in Economics and Econometrics)、The Japanese Economic Review (SJR 0.587, Q2 in Economics and Econometrics)。

2. 博士論文の概要

博士学位請求論文では、選挙における政党のキャンペーン戦略のうち、争点選択 (Issue selection) と呼ばれる現象を、ダウズが提唱した政治的競争モデルをもとに分析している。争点選択とは、「投票者が特定の争点を重視して投票を行うよう、政党が投票者の意識を誘導するキャンペーン戦略」と定義される。論文では、争点選択が選挙結果にもたらす影響について、次の三つの観点から分析している。

- 1 メディアと政党の争点選択の相互作用が選挙結果に与える影響 (第2章)
- 2 戦略的な争点選択が所得再分配政策に与える影響 (第3章)
- 3 政治的誤情報が政治的競争を通じて犯罪の取り締まり政策に与える影響 (第4章)

以下では、博士学位請求論文の各章に対応するそれぞれの研究について、その概略を述べる。

研究1 (学位請求論文の第2章) :

本研究では、政治的競争モデルに寡占的なメディア競争モデルを取り込み、政党の争点選択とメディア競争の相互作用が、投票者の各争点に対する顕現性 (issue salience) に与える影響を分析している。このモデルでは、二つの政党が各争点に対する政策を提示し、投票者はこれらの政策の質の高さに応じて投票先を決定する。ただし、投票者の各争点に対する関心の度合いは、政党のキャンペーン戦略とメディア消費によって変わり得る。政党は自らが優位な争点に人々の関心を集めるようにキャンペーン費用を支出し、それが投票者のメディア選択に影響を及ぼす。メディアは政党が支出したキャンペーン費用をもとに各争点の報道量を決定し、投票者は自らの選好に合わせ、視聴するメディアと視聴時間の総量を決定する。結果として、メディア消費が投票者の各争点に対する関心の度合いに影響を与え、引いては選挙結果を変えらることになる。

本研究で得られた結果は以下の通りである。第一に、各メディアは互いに異なる争点の報道量を最大化する。例えば、あるメディアは争点1を重点的に報道し、もう一方のメディアは争点2を重点的に報道する。第二に、異なるメディアの視聴を選択した投票者は、それぞれが異なる争点への関心・顕現性を高める。例えば、争点1を重点的に報道するメディアAを視聴した投票者は、争点1に対する関心を高める一方、争点2を重点的に報道するメディアBを視聴した投票者は、争点2に対する関心を高める。結果として、投票者がもつ各争点への顕現性は分極化する (polarization of issue salience)。第三に、顕現性の分極化の結果として政策の質の総量が低い候補者への得票が増加する。これは、顕現性の分極化が起きることで、政策の質の総量が低い候補者の場合でも、自らが比較優位をもつ争点のみに投票者の関心を集めることができるためである。

研究2 (学位請求論文の第3章) :

本研究では、再分配政策と社会的イデオロギーという二次元政策空間上の政治的競争モデルをもとに、保守政党とリベラル政党が戦略的に行う争点選択が、投票者の各争点に対する顕現性の変化を通じて、提示する政策にどのような影響を与えるかを議論している。複雑な相互依存関係を分析可能なものとするため、本研究では各政党は提示する税率を変更できる一方、各政党の社会的イデオロギーのポジションは固定としている。また、争点選択において、政党は強調する争点（再分配政策／社会的イデオロギー）を選択するとともに、キャンペーン費用の支出を通じて、どのタイプの投票者に向けて争点を強調するかを選択できるものとしている。

本研究で得られた結果は以下の通りである。第一に、均衡ではリベラル政党が再分配政策を争点として強調する一方、保守政党は社会的イデオロギーを争点として強調する。また、この均衡では、両政党ともに保守／低所得タイプの投票者にターゲットとし、彼らの顕現性を操作するインセンティブをもつ。第二に、上記の均衡は社会的イデオロギーの分極化が起きたときに、より頑健性の高いものとなる。第三に、社会的イデオロギーを争点として強調する戦略の効果が、再分配政策という争点を強調する戦略の効果を上回る時、両政党は税率を低下させるインセンティブをもつ。結果として、低所得者が多数を占める社会であっても、所得の不平等が拡大するような政策が支持される。こうした状況は、近年の米国における中絶の権利を巡る最高裁判決のように、社会的イデオロギーに関する市民の関心が高まったときに発生しやすいと考えられる。

研究3（学位請求論文の第4章）：

本研究は学位請求者と成蹊大学の矢作健氏との共同研究である。

著者らはダウンスの政治的競争モデルと、ゲーリー・ベッカーにより提唱された犯罪の取り締まりモデル（law enforcement model）を組み合わせたモデルを構築し、政治的誤情報が取り締まりの程度もたらす影響を分析している。このテーマは一見すると本論文の主題から外れるように見えるものの、著者らは政治的誤情報によるキャンペーン戦略が、本質的には争点選択と同じ構造をもつことを示している。すなわち、政治的誤情報を通じて、犯罪被害が増大していると投票者に認識させることは、犯罪の取り締まりという争点の顕現性を高めることと同義である。

本研究の結論は以下の通りである。第一に、均衡において、犯罪の取り締まりという争点に優位性（issue ownership）をもつ政党は、投票者の犯罪被害に対する認識を過大な方向に誘導するインセンティブをもつ。一方、優位性をもたない政党は、投票者がもつ犯罪被害に対する上方バイアスを修正するインセンティブをもつ。この結果は、issue ownership theory の中心命題である「政党は自らが issue ownership をもつ争点の重要性を強調する一方、もう一方の政党はその重要性を引き下げる戦略をとる」という結果に対応している。第二に、各政党が投票者の犯罪被害に対する認識を互いに逆方向に誘導するにもかかわらず、政治的キャンペーンは、両政党が提示する犯罪の取り締まり政策を厳罰化の方向に変化させる。この結果は、投票者の犯罪被害に対する選好がリスク回避的であることに由来する。すなわち、投票者は犯罪に対してリスク回避的であるがゆえに、犯罪被害に対する投票者の認識を過大な方向に誘導する戦略の効果は、犯罪被害に対する認識の上方バイアスを修正しようとする戦略の効果を上回る傾向がある。

なお本論文の執筆に当たって、学位請求者は共著者とともに、論文の出発点となるアイデアの提出、モデルの構築、命題の証明、本文の執筆、査読対応にかかわっており、十分な貢献が認められる。

3. 博士論文の評価

本論文は、政治経済学において分析が行われてきた政党の争点選択という戦略を、三つの新たな視点から拡張し、争点選択が選挙結果にもたらす影響について、新たなインプリケーションを導いている。以下では、三つの研究における学術的意義について簡潔に紹介する。

第2章の研究は、これまでのフォーマルモデルが取り扱ってこなかった、争点選択におけるメディアの役割について、理論的に初めて明らかにした研究といえる。実証研究において、投票者がもつ各争点に対する顕現性とメディア報道との関係は長年研究されてきたものの、理論的にその役割が議論されることはなかった。また、本研究は各種の世論調査などで確認される「争点に対する顕現性の分極化 (polarization of issue salience)」という現象をメディア競争の観点から説明したという点、そしてそれが実現する政策の質の低下につながる可能性を指摘したという点でも、学術的な貢献が認められる。

第3章の研究は、これまでの争点選択を巡るフォーマルモデルが避けてきた、政党の争点選択と政策綱領の相互依存関係を分析した研究である。特に、論文では争点選択が再分配政策（税率）に与える影響に着目し、分析を行っている。そして、争点選択が低所得者層の関心を社会的争点に引き付ける結果として、低所得者が多数を占める社会においても、政党が高所得者の要望に応じて、再分配を弱めるような政策を提示する可能性を示唆している。本研究は争点選択という新たな観点から、所得の不平等が拡大する可能性を指摘した研究と考えられ、学術的意義は認められる。

第4章の研究は、先進国に広くみられる、犯罪に対する取り締まりの厳罰化という現象を、政治的誤情報という観点から分析した論文である。本研究は一般的な仮定から、「各政党が投票者の犯罪被害に対する認識を互いに反対方向に誘導するにもかかわらず、取り締まり政策は厳罰化の方向に変化する」という直感に反する結果が生じることを指摘しており、フォーマルモデルとして意義のあるものになっている。また、本研究はダウنزの政治的競争モデルとゲーリー・ベッカーの犯罪取り締まりモデルを組み合わせた数少ない研究であること、フェイクニュース/誤情報の問題を犯罪の取り締まりモデルに適用した初めての論文であることから、学術的意義が認められる。

4. 中間報告会における指摘と修正対応

以下では、中間報告会において受けた指摘と、その指摘への対応を示す。

第1に、Introductionにおいて博士論文全体の目的、特に争点選択と呼ばれる研究分野全体がもつ課題を明確にしたうえで、博士論文に含まれる3本の論文の位置づけを整理するよう指示がなされた。これを踏まえ、修正版では争点選択がもたらす社会的影響を①政治家が有権者の関心を特定の争点に引き付けることで、本来重要であるはずの他の争点から関心をそらし、結果として資源配分を歪める可能性(distortion effect)、②有権者に対して特定の争点に関する政策的情報を提供することで、有権者により理にかなった投票を行わせる可能性

(informative effect)、という2つに整理したうえで、これらの観点から争点選択の規範的な意義を分析することが、分野全体としての課題であると述べている。また、博士論文に含まれる3本の論文は①の側面に着目していること、今後の課題は争点選択がもつ②の側面を考慮しつつ、①と②が総体として社会厚生に与える影響を分析することであると整理している。

第2に、Introductionの先行研究のパートにおいて、争点選択と関係の深い、positive/negative campaign および campaign finance に関する研究のレビューを含めるよう指示があった。これを踏まえ、修正版では新たに“Political campaigns and advertisement”の項を設け、争点選択との関係を議論している。特に、候補者の能力や政策に関して不確実性が存在し、キャンペーンがそれらの情報を投票者に伝達するタイプの先行研究に言及したうえで、争点選択の分野ではこうしたキャンペーンがもつ情報伝達機能を考慮した研究が非常に少なく、今後の課題となる点が指摘されている。

第3に、博士論文の第2章において、政党の目的は得票率の最大化であると仮定されているものの、aggregate uncertainty を考慮することで、政党の目的関数を勝率の最大化に置き換えることが可能であることを、脚注に明記するべきとの指摘があった。これを踏まえ、修正版では脚注18にこの事実を記載している。さらに脚注28において、勝率の最大化に置き換えた場合、命題2.3のインプリケーションがより明確になることを示している。

第4に、各章のAppendixの項番を章ごとに分けること、また目次にAppendixを含めるようにするなど、体裁面での指摘があった。この点についても、適切に修正が加えられている。

5. 結論

以上、山口洋平氏は中間報告会等でのコメントや修正要求に真摯に対応し、説得的な修正を行って今回提出された学位請求論文を作成した。公開報告会においてもその点は確認されたので、同論文が博士学位授与にふさわしい論文であると全員一致で判断した。

以 上